

三陸中部森林管理署	
タイトル	民有林と国有林が連携した森林共同施業団地内における現地検討会
実施年月日	平成24年7月25日(水)
実施場所	岩手県釜石市橋野町 橋野第二国有林403林班ほか
参加者	局署：東北森林管理局、青森事務所、三陸中部森林管理署 16名 外部：(独)森林総合研究所森林農地整備センター盛岡水源林整備事務所、 岩手県沿岸広域振興局農林部、同大船渡農林振興センター、 釜石市、大船渡市、陸前高田市、 三陸中部国有林材生産協同組合、釜石地方森林組合、 気仙地方森林組合、陸前高田市森林組合、 署管内林業事業体等 26名 計 42名
<p>【取組の目的・概要】 当署では「森林・林業再生プラン」の実現に向けた取組を推進する目的で、民有林と国有林が連携して森林整備を進めるため、釜石市及び釜石地方森林組合の三者による「釜石市初神上台地域森林共同施業団地」の設定に関する協定を平成24年3月に締結した。 今年度からこの協定に基づいて、国有林側の路網補修とそれに接続する民有林の森林作業道の新設、その路網を相互利用して手入れの不十分だった民有林の間伐を実施し、森林整備を推進していくこととしている。この共同施業団地内において、継続的に使用できる路網づくり、低コスト作業システム、林地残材の有効利用等について現地検討会を開催した。 低コストで壊れにくい道づくりとして、作設中の森林作業道でルート選定に当たっての留意事項、土質の影響や盛り土法面の保護、排水処理等について意見交換を行った。</p>	
<p>【取組の成果】 路網整備により利用間伐が進めば、東日本大震災の復興対策として必要とされる木材の安定供給、再生可能エネルギーとして、林地残材の木質バイオマスへの有効利用など、地域づくりへの貢献に寄与することができる。 当日の午後は、新日鐵(株)釜石製鐵所に移動し、これまで林内に放置され、未利用資源であった林地残材を木質バイオマスとして、石炭と混焼して発電する施設の稼働状況を見学し、川上から川下まで連携して、地域の森林資源を有効利用するためのシステムづくりが、今後さらに求められていることを確認した。</p>	
<p>【出された意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルートの選定は、不安定な地形や岩石地を回避する必要があるため、先行伐採が進み過ぎないようにしている。 ・東日本大震災では幹線道路が一時寸断されたため、迂回路として作業道を利用した事例もあり、防災の面からも林業のみならず幹線道路を結ぶ臨時避難道、迂回路的機能を持った設計も考慮している。(釜石地方森林組合) 	
<p>【今後の課題】 当署管内では、現在団地化の協定は1カ所であるが、民有林と連携した森林整備等を更に推進していくためには、関係機関との情報共有を密にし第2、第3の団地化へ向けた取組が必要である。</p>	

タ イ ト ル

民有林と国有林が連携した森林共同施業団地内における現地検討会



開会式での署長挨拶



森林作業道の作設状況



意見交換の様子



新日鐵釜石製鐵所内の未利用材保管ヤード



木材をチップ化する破砕機



チップの保管状況